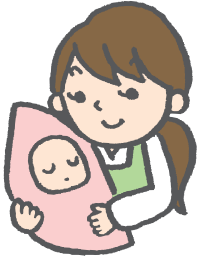


ぼくの安全基地

大人との絆を拠りどころにして広がるこころ

乳児期の子どもの心身の健やかな発達に必要なのは、母親や保育者との愛着の形成による「安全基地」の存在です。愛情あふれる母親や保育者が、温かなまなざしで見守り、また多様なかわりをもつことで、子どもは安心して、周囲の環境に自ら働きかけるようになります。

今回は、保育士との愛着の形成から、しだいに人、物、自然へと興味・関心を広げていく子どもの姿をお伝えします。



保育士との出会い (安全基地の存在)

桜が園庭に咲き始めたころ。0歳児クラスに4名の新入園児が入園してきました。朝、初めて親元を離れての保育園生活が始まった8か月のAちゃん。母親の抱っこから離れようとせず、泣き叫んでいます。悲しむAちゃんに「お母さんがいいね。大丈夫よ」と温かい心と笑顔でギュッと抱きしめてあげました。…(保育園では私がお母さんの代わりだよ)その日からAちゃんと私の保育園生活が始まりました。

Aちゃんは人見知りが強く、抱っこをしていないと生活できない状況で、おむつ交換や食事、授乳、睡眠も泣いて十分にできないほどでした。言葉の存在にもまだ気づいてはいませんが「おなか空いたのかな？もうすぐご飯だよ。お母さんもうすぐで

迎え来るからね」と、優しく話しかけ思いに寄り添っていきました。…(まだ保育園生活始まったばかり。無理せず、まずは信頼関係を築いて私がAちゃんの安全基地になろう)そんな毎日の繰り返しの中で、私の顔を見ながら、ふつと泣き止む瞬間がありました。そのとき私はAちゃんに顔を近づけ「ばあつ」と言つてにつこり笑いかけると、私の顔をじっと見つめ確かめるようにして触ってきました。…(毎日一緒にいる私の存在を認めてくれたのかな)一歩ずつAちゃんとの距離が縮まってくのを感じました。

Aちゃんとの信頼関係がつき始めたことで、食事もよく食べるようになり、5月中旬には一定時間眠り、抱っこからお座りをして、一人で遊ぶ時間も増えてきました。

自然との出会い

(保育士と発見を共感)

園庭に散歩に出かけたときのこと。太陽の光を浴びて眩しそうな表情のAちゃん。そんな表情の中にも自然の匂い、風、鳥や子どもたちのあそび声を全身で感じ取っているように見えました。「気持ちいいね」と声をかけながら、花壇の前に行き「きれいだね」と花を見ると、Aちゃんもじっと見つめ「ダイダイ」と花にしきりに手を伸ばし、笑顔でつかもうとしていました。「あかいおはな」とAちゃんと二人笑顔になりました。



友だちとの出会い

(保育士から)

友だちへの関心

お座りをして一人遊びをするAちゃん。そろそろハイハイを促そうと手作りおもちゃを作りました。おもちゃを持つて「おいで」とあやすと、興味を示し、腹ばいで近づこうと奮闘。今度はおもちゃを転がしてみると、腹ばいで二、三步進み、ピタッと止まり私の方を振り向きました。私が笑顔を見せると、安心したように、また二、三步進み、おもちゃに辿りつくと、触わったり、舐めたりとしばらく夢中で遊んでいました。

そこへ、1歳1か月のBちゃんがやってきて、Aちゃんの顔を笑顔でのぞき込みました。一緒に笑顔になるAちゃん。Bちゃんに親しみをもつたようで「あくあく」とハイハイで近寄ります。Bちゃんは歩行で二、三步進み、A



ちゃんの方を振り返ってニッコリ。その顔を見たAちゃんはまだもう一度「あくあく」とハイハイで近寄りました。

そんなやり取りを楽しそうに繰り返していました。：(追いかけてっこしているみたい。私の存在だけでなく、友だちにも関心を向けるようになっていったんだな)二人のやり取りはとても微笑ましく、Aちゃんの成長をうれしく感じる出来事でした。日々、Aちゃんの成長を喜

びながら保育をして3か月が経ったころ。朝、母親との別れの際「Aちゃんおはよう」と笑顔で両手を差し出すと、母親から離れました。私の腕の中に来てくれました。そして、母親がバイバイを言う前に、バイバイと手を振りました。その姿をみて、Aちゃんにとって

保育園が第二の生活の場となり、安全基地

となったことが実感でき、人と人の絆の尊さを知ることができました。



年長組のお姉ちゃんに遊んでもらって

乳児期は

生きる力の土台創り

「甘えはどこまでを受け止めてらいいの?」「抱っこばかりしていると抱っこ癖がつく」とのご相談がありますが、この時期に身近な大人に、甘えを受け入れてもらったり、抱っこしてもらったり、要求に応えてもらえた安心や喜びの経験は、その子の心の拠りどころとなり、あらゆるものへの興味や関心、好奇心を広げるものとなります。それは新しい世界を発見することにつながり、子ども自身の学びとなり、さらには『自分で考え行動する』という自律にもつながっていきます。人とのかわりが重要な乳児期に、心にたくさんの愛情を蓄積させ、生きる力の土台を創ってあげたいですね。

まずは家庭から、そして保育園も子どもの健やかな成長・発達のために、将来を見据えたかわりを一緒に行っていきたいと思

足羽東保育園

大島直子